

八王子発の市民ミュージカル —歴史遺産「八王子千人同心」の活用—

Citizen Musical from Hachioji - Historical Heritage "Hachioji Senjin Dosin"-

杏林大学総合政策学部 田中ゼミナール
宇津木大河¹⁾, 柳田夏穂¹⁾, 今井暁子¹⁾

指導教員 田中信弘²⁾

- 1) 杏林大学総合政策学部 田中ゼミナール
- 2) 杏林大学総合政策学部教授

キーワード：市民ミュージカル，八王子千人同心，歴史遺産，郷土史，新撰組

1. はじめに

八王子市郷土資料館が編纂したブックレット「千人のさむらいたち—八王子千人同心」によれば、「個性ある街づくりの基本は、本市の歴史資産を活用すること」であると指摘しています。八王子千人同心とは、徳川家康が江戸への敵の侵入を防ぐ役割を担う目的で設置した武士団のことです。日光勤番（火の番）、蝦夷地の開拓など様々な場面で、八王子千人同心は活躍していました。

実は、この八王子千人同心が「新撰組」のルールと言われているのです。新撰組といえばドラマやゲームと、常に話題が尽きない歴史コンテンツです。現在も映画化が進行中で人気留まるところを知りません。しかし、この八王子千人同心の歴史的価値が途絶える心配もあります。そんな彼らの歴史を守り、継承していくために、八王子市民の皆さんで作上げる「市民ミュージカル」の開催を提案します。一つの舞台を通じて、八王子の歴史への理解を深めつつ、学生、社会人、高齢者など多くの人たちとの交流のもとに舞台を実現するのです。

2. 八王子千人同心をめぐる現状と課題

八王子市には千人同心の功績を語り継ぐ市民グループ「八王子千人同心旧交會」があります。友

好都市である日光などへ、親睦を深めるための訪問を実施し、市内外の祭などで、会員が千人同心の恰好をしてパレードに参加し、千人同心の認知度をあげる取り組みなどを行ってきました。しかし、会員の高齢化が進み、活動が縮小傾向になり、周知活動も減っています。会員の平均年齢が60歳代となり、30～40歳代の世代は活動が停滞し、次世代にいかにつなげていくかが課題となっています。

3. 市民ミュージカルの提案の内容

1) 八王子千人同心ミュージカルの概要

千人同心の歴史を語り継ぎ、後世に歴史を伝える手段として、千人同心のミュージカルの実現を提案します。ミュージカルは、子供から大人まで楽しめるように、歌、ダンス、演劇で盛り上げていきます。「歴史もの」のミュージカルでも、華やかに楽しく、客席も一体となって千人同心を楽しむことができます。

ミュージカルの構成は、現代パートと歴史パートに分けることで、現代人たちが八王子の歴史を紐解いていくという手法を取ることで、歴史を深く理解していこうと考えます。物語の主人公は、石坂義礼（1809-1868）という人物にスポットを当てます。彼は千人頭として、戊辰戦争において、

日光東照宮を戦渦から守るために日光を敵に明け渡します。後にそのことを言及され、責任を取るために切腹をして命果てました。この石坂義礼の行動は現代の多くの人々が知るべきものだと考え、劇的なストーリーの構成を志向します。

2) 八王子千人同心を取り上げる意義

日本各地で活躍した八王子千人同心を取り上げる意義は、千人同心の中から後の新撰組に参加する者が複数名いたといわれることです。また今でも八王子市内の千人町にある千人同心が屋敷を構えていたとされる千人同心屋敷跡碑や、日光市と八王子市が姉妹都市となる縁を作った石坂義礼が葬られた興岳寺などが存在し、これらの歴史に触れることでも、千人同心の存在を実感できると思います。根強いファンが多い新撰組のルーツであることを活かし、千人同心にも興味を持っていただくことができると考えます。

4. 実現のための具体的提案

私たちの提案の実現可能性を探る根拠として、他の自治体の先行事例を紹介し、成功条件となる要素を挙げていきます。

第一に、「歴史もの」の上映の成功例に学べる点です。千葉県「いちかわ市民ミュージカル」は、戦争の歴史につなげるテーマが数多く実演されてきました。過去のテーマでは、2日間で三千人の観客を動員した「夏の光 2016～空に消えた馬へ～」があります。戦争と破壊の象徴であった市川市の赤レンガ建築物(旧血清研究所)を、戦争を語り継いでゆくためのモニュメントとして、この戦争遺跡が必要ということ、市民ミュージカルを通し伝えていきます。市川の歴史そのもので郷土史の学習にもなると考えられます。

第二に、幅広い年代の出演者を募集するという点では、愛媛県「松山市民ミュージカル」が参考になります。市民が出演者に応募し、オーディションによる公募が話題性を高めて宣伝効果を生みました。そしてプロの演出家の起用のもとで市民の出演者たちは鍛錬を積み、さまざまな演目を昇華

することに成功し、これまで観客累計数 10 万人を達成しました。オーディションは、SNS 等を活用した情報発信(ボランティア、NP0web、ホームページ、Facebook、Twitter 等)や、フリーペーパーなどで紹介されています。

第三に、チケットの販売や助成についての工夫です。「町田市民ミュージカル」は日本芸術文化振興基金の助成を受けた結果、参加者募集の段階から従来以上の広報活動を行うことが可能になりました。助成を受けた公演であることが活動への信頼性を高め、教育委員会などの協力を得て、市内の公立中学校への宣伝もスムーズに行えました。そのことで観客数が増加し、チケットは完売。観客動員数の目標を達成することで、スタッフにも十分な報酬を支払うことができ、作品の質の向上にも寄与していったのです。

その他、民間の取り組みからも、実現に向けてのさまざまな工夫を学んでいくことができるはずです。劇団四季ミュージカル「EVITA」では、公民館、ショッピングモール、大学などでもチケットを販売しており、販売体制のさらなる工夫も課題であると考えています。

5. さいごに

以上、八王子千人同心ミュージカル化について提案しました。歴史遺産への注目は、街づくりの基本であると考えます。八王子の歴史遺産を生かす手段としての市民参加型ミュージカルの実現は郷土史の深化や教育現場にとっても歴史を知るためのコンテンツとして相応しいものと考えます。歴史を後世に語り継ぎ、より多くの人に注目してもらうために、私たちの提案は有用だと考えます。

〈主要な参考サイト〉

タウンニュース：

<https://www.townnews.co.jp/0305/2018/10/04/451170.html>

47 文化プログラム：

<http://bump.47news.jp/event/2018/04/002297.html>

市川市民ミュージカル：

https://ichibun.net/shimin_musical/